

令和元年11月20日

滝沢市議会議長 日向 清一 様

会派名 新志会
代表者名 山谷 仁

政務活動（調査研究・~~研修~~・~~要請陳情等~~）実施報告書

滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第9条に規定する使途基準に基づき、政務活動（調査研究・~~研修~~・~~要請陳情等~~）を実施したので、報告します。

記

- 1 期日
令和元年11月12日（火） ～ 令和元年11月13日（水）
- 2 活動場所
山形県東置賜郡川西町
- 3 参加者
山谷仁、柳橋好子
（奥津一俊議員、菅野福雄議員との合同視察）
- 4 活動内容
別紙のとおり

政務活動シート

調査主体:新志会

調査項目名称	調査研究(視察含む) ・ 研修 ・ 要請陳情等
活動の理由 及び その目的	公共交通の問題点解決の一手段としての、デマンド型交通を導入して順調に運用している先進地を視察、滝沢市での運用の可能性などをはかるために調査研究するものである。
活動概要	<ul style="list-style-type: none">●実施日 令和元年11月12日(火)～令和元年11月13日(水) ●場所 山形県東置賜郡川西町 ●内容 ・デマンド型交通について
活動成果	<p>川西町は高齢化率36.56%と高く、またJRと、山形交通の町民バスがあったが、乗る人が少なく、支えきれない状況であった。 町民バスは平成8年より平成17年まで3路線(29人乗り)バスを運行し、一般会計の持ち出しは1,400万円程度になっていた。</p> <p>デマンド交通の導入経過は公共交通システムの調査事業によるアンケート等で検証をした結果 ① タクシーの料金をもっと安ければよい ② タクシー以外にも自宅まで送迎してくれる公共交通があればよいという声が出てきており、戸口から戸口まで移動できる交通システムを多くの住民が望んでいることが確認され、それに対応していくことが肝要と考えた。</p> <p>デマンド交通導入の視点としては、 ① 街づくりの視点(高齢者の自由度の拡大、閉じこもり解決など) ②事業者の理解と協力 ③町民の理解と協力④財政負担の軽減</p> <p>以上の視点を考え総合的に検討を重ね、平成17年5月に説明会を開き、17年6月から2ヶ月間の無料運行期間を経て、17年9月より平野部の運行を開始、18年2月から、山間部の無料運行を始めている。 現在は、戸口から戸口までの送迎を行っており、1回500円の利用者負担金で実施している。また、タクシー会社の協力で行っているが、値上げの要請も出ているということである。 町の一般会計からの持ち出しは約500万円である。</p>

活動成果	<p>滝沢市に特に必要なもの、関係すること</p> <p>人口15,000人の川西町には、タクシー会社が3社あり、その協力を得られたことも前進させる大きな力になったものと考えられる。</p> <p>家族の送迎も多いというが、それでもお年寄りのニーズに答えている点では、職員のきめ細かな計画が見られること、担当課と横断的なプロジェクトチームの努力のあとが垣間見られる結果であると感じた。</p> <p>滝沢の場合は戸口から戸口への送迎タクシーは、全域となると難しい部分もあり、地域ごとの綿密な検討が必要になると考えられる。しかし本市の公共交通の問題点解決の一手段として提言できる有意義な視察であった。</p>
------	---

会派視察日程表

(令和元年 11 月 12 日～令和元年 11 月 13 日)

年月日	時刻	行程
【移動日】 令和元年 11 月 12 日 (火)	13 : 30 13 : 50～14 : 29 14 : 44～15 : 10 15 : 35～16 : 09	盛岡駅集合 (南口待合室) 盛岡駅⇒仙台駅 (JR 新幹線はやぶさ 20 号) 仙台駅⇒福島駅 (JR 新幹線やまびこ 144 号) 福島駅⇒米沢駅 (JR 新幹線つばさ 141 号) 【宿泊】 「ベストウェスタン THE JAPONAIS 米沢」 (米沢市下花沢 2-5-22)
令和元年 11 月 13 日 (水)	9 : 15～ 9 : 45 10 : 00～11 : 30 13 : 30～14 : 00 14 : 38～15 : 14 15 : 38～16 : 04 16 : 19～16 : 58	ホテル⇒川西町役場 (タクシー) <u>視察 山形県 川西町役場</u> <u>「デマンド型交通について」</u> 【昼食】 川西町内⇒米沢駅 (タクシー) 米沢駅⇒福島駅 (JR 新幹線つばさ 144 号) 福島駅⇒仙台駅 (JR 新幹線やまびこ 141 号) 仙台駅⇒盛岡駅 (JR 新幹線はやぶさ 59 号)

令和 2 年 2 月 2 7 日

滝沢市議会議長 日向 清一 様

会 派 名 新志会
代表者名 山谷 仁

政務活動（~~調査研究~~・~~研修~~・~~要請陳情等~~）実施報告書

滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第 9 条に規定する使途基準に基づき、政務活動（~~調査研究~~・~~研修~~・~~要請陳情等~~）を実施したので、報告します。

記

1 期日

令和 2 年 2 月 10 日(月) ～令和 2 年 2 月 11 日(火)

2 活動場所

東京都墨田区横網 1 丁目 6 番 1 号 KFC ホール 2 nd

3 参加者

山谷 仁、柳橋 好子

4 活動内容

別紙のとおり

政務活動シート

調査主体：新志会

調査項目名称	調査研究(視察含む) ・ 研修 ・ 要請陳情等
活動の理由 及び その目的	2020年度の予算審議を前にし、地方財政のあり方、審議のポイントやまちづくりと行財政システムなどについて学び、滝沢市としての今後のあり方を考えるために研修するものである。
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ●実施日 令和2年2月10日(月)～令和2年2月11日(火) ●場所 東京都墨田区横網1丁目6番1号 KFCホール2nd ●内容 自治政策特別講座「2020年度の予算審議－まちづくりと自治体議会」 第1講座 2020年度の地方財政、傾向と審議のポイント 第2講座 地域の暮らしを支える行政システム－地方債・積立金の活かし方 第3講座 長生きできる町をつくろう－健康格差社会縮小をめざして 第4講座 地域づくりと地方財政－実践から学ぶ活性化のヒント
活動成果	<p>①地域の暮らしを支える行政システム－地方債・積立金の活かし方 について 講師 金澤大学武田公子教授</p> <p>○ 1、地方財政をめぐる「嘘」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政力の弱い地方団体は借金だらけ ・ 豊かな自治体はお金を溜め込んでいる ・ 将来の負担になるから借金はしないほうが健全運営だ <p>そこにはいくつかの誤解 地方債残高の大きさ＝健全化判断基準悪化 とは限らない 財政運営の方法として地方債と基金の機能の相違</p> <p>○ 2、基金の現状とその問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 余裕の表れ？ 交付税の削減論 ・ 財政力と基金残高の関係 ・ ある自治体の事例 財政力指数0.25、人口4000人、一般会計予算18億円 <p>○ 3、事業の資金調達方法と世代間公平性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設公債は「五条債」赤字公債は「特例債」両者の相違 ・ 建設事業の財源として地方債が認められる理由 <p>○ 4、地方債の起債状況と交付税措置</p>

- ・ 2000年以降の抑制・横ばい
- ・ 01年度からの臨時財政対策債
- ・ 地方債の交付税措置とは
- ・ 交付税措置による実質的な公債費負担の軽減

○ 5、正しい地方債・基金による運用の考え方

- ・ 過度の財政縮減と基金増嵩の問題
- ・ 過疎債を巡ってそのメリットと起債のむずかしさ

以上の項目により講義を聴きました。概略を言いますと

地方債が多いからと言って決して貧しい自治体と言い放つことは出来ない、また財政調整基金が多くないと安心できないというのも違うのではないか。

借金をしても国から交付金がそれなりに交付されるので、バランスが取れるのではないかという論理にたつ自治体もある。また、三位一体改革の忌まわしい歴史に振り返った考えを持つ首長たちは借金を恐れ、財政調整基金を積むことに奔走しているという実態がある。

①の所感等

滝沢市に特に必要と思われる考え方、内容は

講義の教授の発言内容は、借金もある程度必要不可欠なものとして考えられるというが、これまでの柳村市政においては借金は後年度の世代に負担をかけるので、これは断ち切らねばならないという考えであった。同感である。国の交付税のあり方と考え方、使い方に関しても大きくその実態が乖離されたものと感じた。今後当市における財政のあり方について、財政改革に関しても人件費の増高にも慎重に将来を考えて対応していくべきと考える。

②長生きできる町をつくろう 健康格差社会縮小をめざして

講師 千葉大学予防医学センター 近藤克則教授

○約50万件のデータに基づく「健康なまちづくり」

健康のためには

- ・ 歩く
- ・ よく笑う
- ・ スポーツをする
- ・ 社会とつながりを持つ
- ・ ボランティア
- ・ 地域組織に参加する
- ・ 地域の活動に参加する

などがあげられる。これを1次予防という

そのための環境を整えることが0次予防

○ 健康のために

2次予防 — 虚弱を遅らせる

1次予防 — 社会参加など

0次予防 — 原因となる社会的、環境的、行動的条件の発生を
防ぐための対策を取る

データによって

認知症になりやすいまち、鬱の人の多いまち、転ぶ人の多いまち
など健康格差の実態が明らかになり、それは本人の努力だけでなく
環境に左右されていることが判明した。

②を要約するとこのような講演だった。

所感等

講演の結論がそのまま滝沢市に活用できると思う。

- ・現状の「見える化」で課題の共有
- ・手がかりを引き出し、実践して効果評価
- ・より効果の大きな方法の普及へ
- ・データ活用と社会参加で健康なまちづくりを
- ・防災も自殺対策もスポーツ振興も

健康格差をなくし、社会環境を整えることの重要性を確認し、0次予防について
理解を深める。

「健康づくり」を総計の柱にしている滝沢市にとって有意義な内容の
研修だった。

③ 地域づくりと地方財政 — 実戦から学ぶ活性化のヒント

講師 東洋大学国際学部国際地域学科 沼尾波子教授

- 人口減少・縮む経済
- 増大する財政需要
- ガバメントからガバナンスへ
- プラットホーム・ビルダーへの転換

人口減少と高齢化により、公共私それぞれくらしを支える機能が低下。
自治体は新しい公共私相互間の協力関係を構築する「プラットホーム・
ビルダー」へ転換する必要。

- プラットホームとは
プラットホームの要素

- 1、場 「場所」「組織」
- 2、要素 「人」「情報」「サービス」
- 3、ネットワーク つながり

- つながりは「機能」整備だけでは生まれない

少子化対策 ・ 児童手当 ・ 婚活パーティ ・ 子育て支援の窓口
移住促進 ・ 相談窓口 ・ 空き家バンク ・ 職業紹介

しかし、形ばかり終わっている。

○ 地域政策の転換「縦割りに横ぐしへ」

所感等

自治体だけでは、職員の数や財政縮小によって、サービスが難しくなっている。公共私相互協力が求められる。

滝沢市としても 協力関係を構築する必要があるが、今ある「機能」が有効に展開されているか、暮らしている人が何を必要としているか市役所内における縦割りから横ぐしへ発想の転換が求められることなどを考えるための有効な研修であった。

研 修 行 程 表

年 月 日	時 刻	行 程
令和2年2月10日 (月)	8 : 30	盛岡駅集合 (南口待合室)
	8 : 50～11 : 04 11 : 13～11 : 17 11 : 22～11 : 25	盛岡駅⇒東京駅 (JR 新幹線はやぶさ 10 号) 東京駅⇒秋葉原駅 (JR 山手線) 秋葉原駅⇒両国駅 (JR 中央・総武線)
	13 : 00～16 : 40	<p style="text-align: center;">【昼食】</p> <p style="text-align: center;">【研修】 K F C ホール 2nd (墨田区横網一丁目 6-1) 「2020 年度の予算審議 一まちづくりと自治体議会」(1 日目)</p> <p style="text-align: center;">【宿泊】 「パールホテル両国」 (墨田区横網一丁目 2-24)</p>
令和2年2月11日 (火)	10 : 00～14 : 40	<p style="text-align: center;">【研修】 K F C ホール 2nd (墨田区横網一丁目 6-1) 「2020 年度の予算審議 一まちづくりと自治体議会」(2 日目)</p>
	16 : 20～18 : 33	<p>両国駅⇒秋葉原駅 (JR 中央・総武線)</p> <p>秋葉原駅⇒東京駅 (JR 山手線)</p> <p>東京駅⇒盛岡駅 (JR 新幹線はやぶさ 29 号)</p>

令和 2 年 3 月 27 日

滝沢市議会議長 日向 清一 様

会 派 名 新志会
代表者名 山谷 仁

政務活動（調査研究・~~研修~~・~~要請陳情等~~）実施報告書


滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第9条に規定する使途基準に基づき、政務活動（調査研究・~~研修~~・~~要請陳情等~~）を実施したので、報告します。

記

- 1 期日
令和2年3月24日（火） から 令和2年3月25日（水） まで
- 2 活動場所
① 岩手県陸前高田市
- 3 参加者
山谷 仁 柳橋 好子
- 4 活動内容
別紙の通り

政務活動シート

調査主体: 新志会

調査項目名称	調査研究(視察含む) ・ 研修 ・ 要請陳情等
活動の理由 及び その目的	東日本大震災津波から丸9年が過ぎ、陸前高田市議会議員の案内により陸前高田市の復興状況を視察し、当市議会の現況について調査研究を行うものである。
活動概要	<ul style="list-style-type: none">● 実施日 令和2年3月24日(火)～令和2年3月25日(水)● 場所 岩手県陸前高田市● 内容<ul style="list-style-type: none">① 「東日本大震災津波伝承館 TSUNAMIメモリアル」見学② 陸前高田市における「東日本大震災からの復興の取り組み状況」③ 復興途中の陸前高田市の現況④ 大震災から立ち上がった地元産業について
活動成果	<ul style="list-style-type: none">● 特記事項 令和元年9月に開館した「東日本大震災津波伝承館」でのガイドの説明は震災の事実を学び、命を守ること(逃げること)の大切さを伝えるものであった。 復興の取り組み状況として、当市議員からの復興事業の説明があり、復興に対する行政と議会の並々ならぬ意欲が感じられた。  <p style="text-align: center;">建設中の陸前高田市役所</p> <ul style="list-style-type: none">● 所感等 復興はまだまだ道半ばと感じた。案内してもらった公共施設、特に運動公園や図書館は「復興施設」として、素晴らしいものであったが、そこに至るまでの市や

議会の苦勞が伝わるものであった。滝沢市の10倍もの予算を組み、それを議決することの大変さを想像した。

戸羽市長と話す機会をもらい、市長の全力投球している姿に感動を覚えた。

また、すべて流されたという牡蠣養殖の方々の話や浜辺の寒風の中で作業するワカメ業者の姿に生きる力の素晴らしさを学んだ。

日ごろの議員活動にとって、復興のために前向きで意欲的な陸前高田市の姿は学ぶことが多く、有意義な視察研修であった。

視 察 行 程 表

年 月 日	時 刻	行 程
令和2年3月24日 (火)	10 : 00	滝沢市役所集合
	10 : 00～12 : 00	滝沢市役所⇒陸前高田市 (レンタカー・自家用車)
		【昼食】
	13 : 00～15 : 00	津波伝承館視察
	15 : 30～16 : 00	市長訪問 (陸前高田市役所)
	17 : 30	【宿泊】 「大船渡温泉」 (大船渡市大船渡町丸森 29-1)
令和2年3月25日 (水)	8 : 00	宿出発
	8 : 30～10 : 00	広田湾漁協視察
	10 : 00～11 : 30	陸前高田市内復興状況視察
	11 : 30～13 : 30	陸前高田市⇒釜石市 【昼食休憩含む】
	13 : 30～14 : 30	釜石市鶴住居復興スタジアム視察
	14 : 30～16 : 30	釜石市⇒滝沢市役所 (レンタカー・自家用車)